河川環境の保護と活用

アユ、サツキマス等の回遊魚の縦断的な移動環境を確保し、下流デルタ地帯では生物の生活環境を確保できるよう配慮するなど、太田川の自然豊かな河川環境を保全、継承します。

また、市内派川を含む河口域では、国・県・市が協力して「水の都ひろしま」構想を基に、水辺の賑わいをもたらす活動の支援を実施します。

鮎（アユ）の降下対策

高瀬堰上流で産卵されたアユの仔魚が、堰が降下阻害となって海まで到達できていないとの指摘があったことから、平成16年度に基礎調査を実施し、平成17・18年度には、広島大学・広島県立水産海洋技術センター・太田川漁協・太田川河川事務所で「高瀬堰アユ仔魚降下調査研究ワーキング」を設置して共同研究し、※アユ仔魚の降下に有益な放流方式を選定しました。この放流方式は、平成１９年１０月から実施しています。

鮎(アユ)

※アユ仔魚(しぎょ)：卵からふ化したばかりの幼生魚。アユの場合、体長５㎜程度で遊泳力はなく、川の流れに漂う様にして流下します。仔魚は、ふ化した後4～5日程度で海まで到達できなければ、死んでしまうと考えられています。

※放流方式：通常、両岸二つのゲートから放流しているが、アユ仔漁が降下する時期には、流れを片側に集中させ、仔漁が堰を通過しやすくしています。

高瀬堰アユ仔魚降下調査研究ワーキング

親しみやすい川を目指して

●上殿地区環境整備事業

太田川上流上殿地区では、中国自動車道戸河内ICが隣接することから、高速交通の玄関口として、交通・商工業・観光の拠点作りが進められており、親水性を活かした魅力的な河川空間を創出するため緩傾斜の護岸や階段などを整備しました。

●魚道～魚がすみやすい川づくり～

魚道（久日市頭首工）

太田川は平成４年３月に「魚がのぼりやすい川づくり推進モデル河川」に指定されました。

広島県、中国電力(株)と協力し、１８箇所で魚道の新設や改良を行い、河口から安芸太田町戸河内まで魚が遡上できる環境が整いました。

●河川環境の活用

環境整備された親水護岸等の河川空間を利用して、市民団体等が様々な活動を展開して、水辺の賑わいを創り出しています。

元安川親水テラスで「水辺のコンサート」

イカダ下り

雁木タクシー

ひな流し(小瀬川)